J

フロントサラウンドシステム

YAS-101

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

■ 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

保証書別添付

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

警告 この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。
- 異常に高温になる。
- 内部に水や異物が混入した。
- 煙が出る。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

必ずAC100V（50/60Hz）の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機の⏻キーでスタンバイ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。
本機を完全に電源から切り離すためには、電源コードをコンセントから抜いてください。

電池

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

禁止

電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

分解禁止

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。

放熱のため本機を設置する際には:
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

(本機の周囲に左右1cm、上5cm、背面5cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

開口部などに異物を入れたりしない。

火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。

接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

お手入れ

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池

電池は極性表示(プラス+とマイナス−)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

電池は幼児の手の届かない所に保管する。
口に入れたりすると危険です。

長時間使用しない場合は、電池をリモコンから抜いておく。
電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、リモコンを損傷するおそれがあります。

設置

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

注意

機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。

接続するAV機器以外の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

移動

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

再生を始める前には、音量（ボリューム）を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

リモコン

水やお茶などの液体をこぼさない。
故障の原因になります。

落としたり、強い衝撃を与えたりしない。
故障の原因になります。

下記のような場所に置かない。
- **風呂場の近くなど、湿度が高いところ**
- **暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ**
- **極端に寒いところ**
- **ほこりの多いところ**

火災や故障の原因になります。

お手入れ

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

手入れするときは、柔らかい布で乾拭きする。合成洗剤や化学ぞうきんで拭いたりしない。
色がはげたり、外装が損傷することがあります。

目次

本機でできること

- **定位感に優れた高品位なサラウンド再生（AIR SURROUND XTREME 搭載）**..... ☞ P. 7
- **ナレーションやセリフを聞き取りやすくする（クリアボイス機能）**.......................... ☞ P. 7
- **番組間や番組と CM との音量差を補正（ユニボリューム機能）**............................... ☞ P. 7
- **テレビリモコンで本機を操作（テレビリモコン学習機能）**.................................. ☞ P. 10

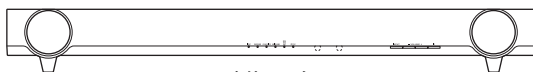
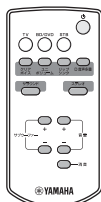
■本書の記載について

- 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
- 「💡」では、知っておくと便利な補足情報を記載しています。「ご注意」では、安全に関する重要な注意事項と操作方法を記載しています。
- 本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合がございますのでご了承ください。

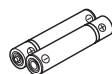
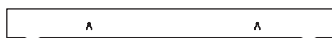
音を楽しむエチケット

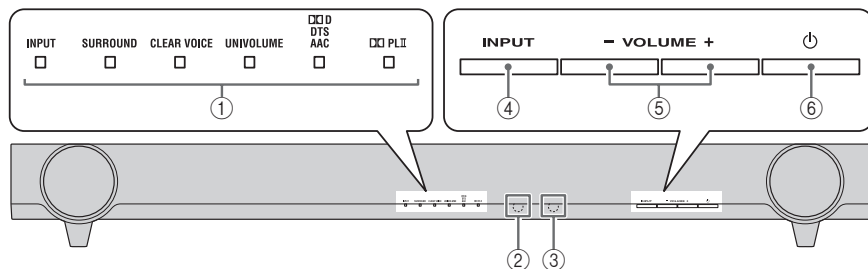
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めるなどして使用しましょう。
音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

同梱物を確認する

ご使用になる前に、同梱品がすべてそろっていることを確認してください。

本体：1 台

リモコン：1 個

取付用テンプレート：1 個

光ファイバー
ケーブル：1 本 /1.5m

単 4 乾電池：2 本

スペーサー：2 個

フロントパネル

①インジケーター

システムの状態を表示します。（☞ P. 11）

5 秒ほど本機を操作しなかった場合、インジケーターは自動的に暗くなります。（オートディマー機能）

②本機リモコン受光部

本機リモコンの赤外線信号を受信します。

③テレビリモコン受光部

テレビリモコンの赤外線信号を受信します。

④INPUT キー

再生する機器を選択します。

⑤VOLUME(+/ −) キー

音量を調節します。

⑥⏻（電源）キー

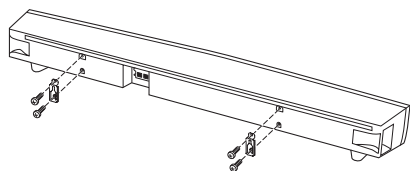
電源のオン / スタンバイを切り替えます。

設置する

設置イメージ

例１：テレビの前に設置
例２：脚部をはずしてテレビの前に設置（☞ P. 9）
例３：壁に取り付けて設置

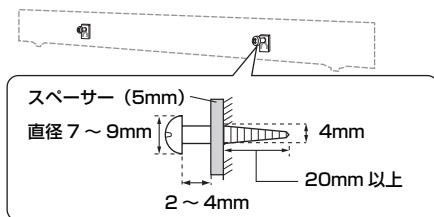
ご注意

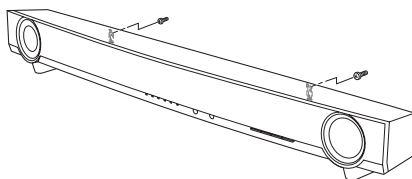
- 本体を BD レコーダーなどの上や下に直接置かないでください。本体の振動により外部機器の故障につながる恐れがあります。
- 設置状況によっては、テレビや BD レコーダーなどの外部機器を接続してから本体を設置したほうがよい場合もあります。一度仮置きをして設置状況を確認し、設置と接続のどちらから行うか決定することをおすすめします。
- お手入れの際は、乾いた柔らかい布（メガネ拭き用クロスなど）をご使用ください。
- 本体前面および底部のサランネットには手をかけないでください。
- 本体の背面でテレビを傷つけないように、テレビから 5cm 以上離して本体を設置してください。本体背面の壁掛け用金具は取りはずすことができます。

本体を壁に取り付ける

本体背面の取付金具を使用して壁に設置します。

> 本体を壁に設置する際は、専門の業者または販売店に依頼してください。お客様ご自身で作業を行わないでください。設置方法を間違えると、本体が落下し、けがの原因になります。

1 **壁に付属の取付用テンプレートを取り付け、ネジ位置の印をつける。**

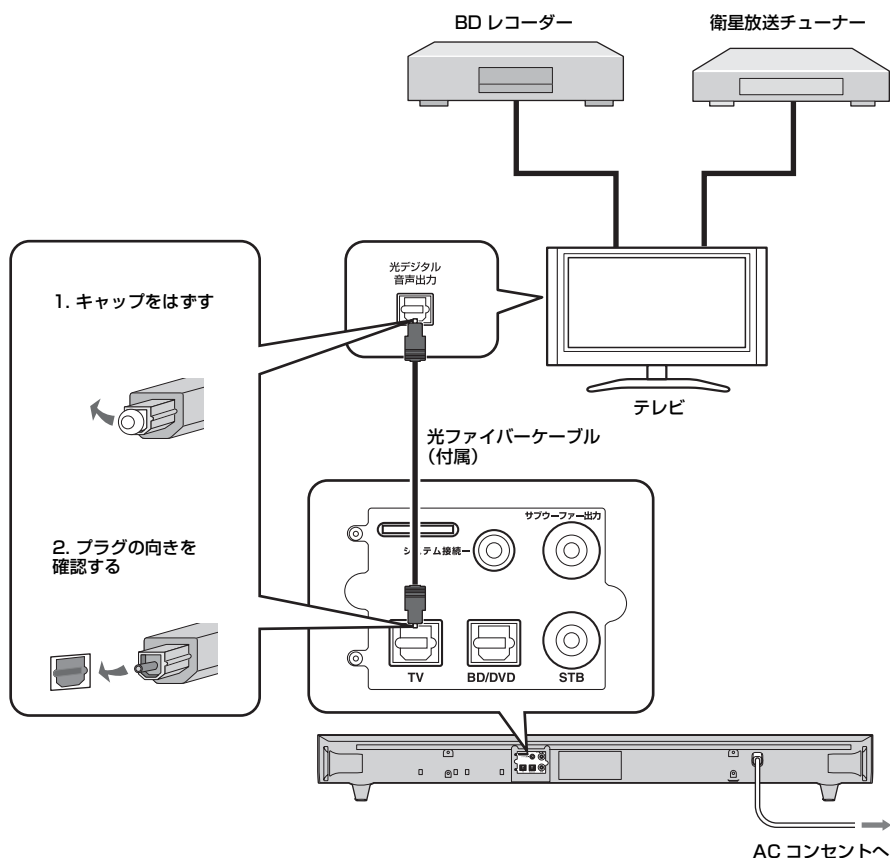
2 **取付用テンプレートを取りはずし、印をつけた位置に市販のネジと付属のスペーサーを取り付ける。**

3 **本体をネジに掛けて設置する。**

ご注意

- しっくいやベニヤ板のような弱い材質の壁には設置しないでください。本体が落下する原因になります。
- 本体を十分に支えられる市販のネジを使用してください。
- 設置する前に、ネジを確認してください。規定（手順 2 を参照）に満たないネジやくぎ、両面テープのご使用は本体が落下する原因になります。
- 本体設置の際は、ケーブル類を必ず固定してください。誤って手や足に引っ掛かると、本体が落下する原因になります。
- 設置後、本体がしっかりと固定されていることを確認してください。誤った設置により起きた事故について、弊社は責任を負いかねますのでご了承ください。

接続する

- 電源コードは、すべての接続が完了してから接続してください。
- ケーブルプラグや端子に損傷をあたえる原因になりますので、プラグを差し込む際に強い衝撃をあたえないようにしてください。

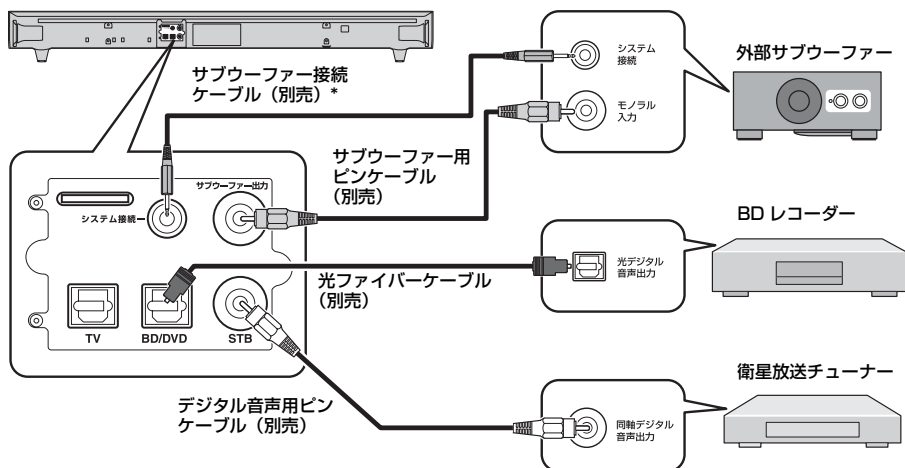
テレビと接続する

本機はテレビから出力される音声を再生します。
BD レコーダーなどの機器とテレビを接続し、音声がテレビで再生されることを確認してください。詳しくはテレビや BD レコーダーなどの取説を参照してください。
その後、下図に従ってテレビと本機を接続してください。

テレビの設定

接続を完了したら、本機を操作前に以下のようにテレビを設定してください。
- テレビの音量は最小にしてください。
- テレビの設定メニューでテレビ内蔵のスピーカーからの音声出力をオフにすることができる場合は、オフに設定してください。

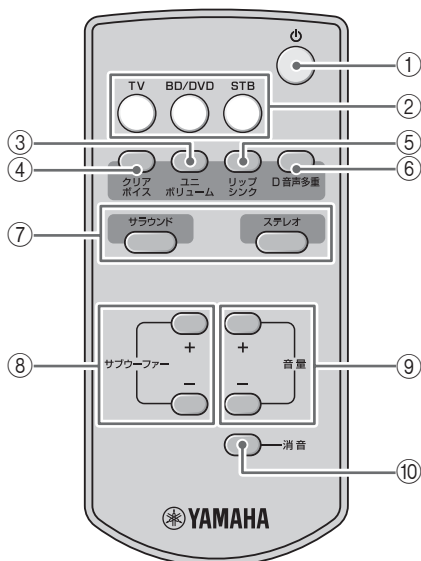
その他の接続について

以下の場合には、BD レコーダーや衛星放送チューナーなどの機器を本機と直接接続してください。
- 4 ページの接続方法では、BD レコーダーや衛星放送チューナーなどの機器の音声が本機から再生されない場合
- テレビに BD レコーダーや衛星放送チューナーなどの機器を接続するための音声入力端子がない場合

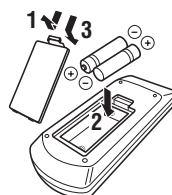
外部サブウーファーを使用する場合は、「外部サブウーファーを使用する」（☞ P. 9）を参照し、本機の設定を変更してください。

* システム接続端子のあるヤマハ製サブウーファーと本機を接続すると、サブウーファーの電源を本機の電源と連動させることができます。その際は、ヤマハ製サブウーファーに付属しているケーブルを使用してください。

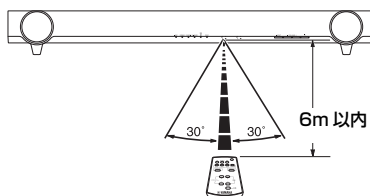
操作する

すべてのケーブル接続とリモコンの準備が完了したら、「基本の操作」の手順に従い再生操作を行ってください。

リモコン

① ⏻（電源）キー：電源のオン / スタンバイを切り替えます。
② 入力キー：再生する機器を選択します。
③ ユニボリュームキー：ユニボリュームのオン / オフを切り替えます。（☞ P. 7）
④ クリアボイスキー：クリアボイスのオン / オフを切り替えます。（☞ P. 7）
⑤ リップシンクキー：映像と音声のタイミング調整ができるようになります。（☞ P. 8）
⑥ D 音声多重キー:主音声 / 副音声 / 主音声＋副音声を切り替えます。（☞ P. 8）
⑦ サラウンドキー / ステレオキー：サラウンド再生 / ステレオ再生を切り替えます。（☞ P. 7）
⑧ サブウーファー（+/ −）キー：サブウーファー音量を調整します。（☞ P. 7）
⑨ 音量（+/ −）キー：音量を調整します。（☞ P. 7）
⑩ 消音キー：消音のオン / オフを切り替えます。（☞ P. 7）

本機リモコンに電池を入れる

電池を入れる前やリモコンを使う前に、「安全上のご注意」の「電池」および「リモコン」をよくお読みください。

本機リモコンの操作範囲

操作の際は、リモコン赤外線送信部を本体リモコン受光部に向けます。リモコン操作が可能な範囲は、本体から 6m 以内です。

基本の操作

1 **テレビの電源をオンにする。**

2 **本機リモコンの TV キーを押して本機の入力をテレビに切り替える。**

本機からテレビの音が再生されます。
INPUT インジケーターは緑色に点灯します。（☞ P. 11）

INPUT

3 **BDレコーダーなどを使用する場合は、テレビの入力を切り替える。**

BD レコーダーなどを本機の音声入力端子に接続した場合の再生

1 **テレビの映像入力を BD レコーダーなどの映像に切り替える。**

2 **本機リモコンのBD/DVDキーまたはSTBキーを押して本機の入力を切り替える。**

選択した入力に応じて INPUT インジケーターが点灯します。（☞ P. 11）

3 **再生を開始する。**

外部機器についての詳細は、ご使用の機器の説明書をご覧ください。

お好みのサウンドを楽しむ

サラウンド / ステレオ再生を切り替える

サラウンド再生：ヤマハ独自の音場創生技術 AIR SURROUND XTREME を用いて臨場感のある音響効果を楽しむことができます。
ステレオ再生：2ch ステレオで再生します。

サラウンド再生	ステレオ再生
サラウンド SURROUND 緑色	ステレオ SURROUND 消灯

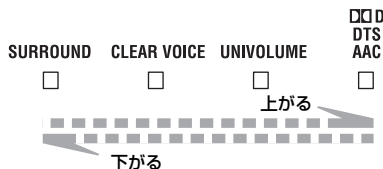
音量の急激な変化を抑える（ユニボリューム）

テレビを視聴中、以下のような場合に、過大な音量の差を補正して聞きやすくします。
- チャンネルを切り替えた
- 番組から CM へ変わった
- 番組が終わって次の番組が始まった

ナレーションやセリフを聞き取りやすくする（クリアボイス）

映画やドラマ、スポーツ中継の実況や解説などの音声を聞き取りやすくします。

音量を調整する

音量（+/ −）キーを押す。

DD D DTS AAC インジケーターの点灯色が音量の調整値によって変化します。小さめの音量のときは緑色、中くらいの音量のときはオレンジ色、大きめの音量のときは赤色に点灯します。

ご注意

DD D DTS AACインジケーターが赤色に点灯しているときは大きめの音量に設定されています。周囲の迷惑になったり、耳への負担にならないようにご注意ください。

一時的に消音にするには消音キーを押します。消音を解除するには再度消音キーを押すか音量（＋ / −）キーを押します。

サブウーファー音量を調整する

サブウーファー（+/ −）キーを押して低音を調整する。

DD D DTS AAC インジケーターの点灯色が低音の調整値によって変化します。標準値（初期値は 0）のときはオレンジ色、標準より小さいときは緑色、標準よりも大きいときは赤色に点灯します。

映像と音声のタイミングを調整する（リップシンク）

画面と音声がずれる場合に、音声の出力タイミングを遅らせることにより調整します。

1 リップシンクキーを3秒以上押して、リップシンク調整モードに入る。

INPUT　SURROUND　CLEAR VOICE　UNIVOLUME　DD D DTS AAC　DD PLII

緑色に点滅（☞ P. 11）

2 サブウーファー（+/ −）キーを押して、遅延時間を調整する。（+ を押すと、遅延時間が長くなる）

DD D DTS AAC インジケーターの点灯色が遅延時間の値によって変化します。遅延時間が短めのときは緑色、遅延時間が中くらいのときはオレンジ色、遅延時間が長めのときは赤色に点灯します。

3 リップシンクキーを押して、リップシンク調整モードを終了する。

本機を何も操作しない状態が 20 秒以上続いた場合、自動的に調整モードを終了します。

主音声と副音声を切り替える

BS/ 地上デジタル放送の主音声および副音声の再生を切り替えることができます。

D 音声多重キーを繰り返し押して、主音声 / 副音声 / 主音声 + 副音声を切り替える。

切り替え時の点滅の色によってどの音声で再生しているのかを確認できます。（☞ P. 11）

主音声：緑色
副音声：赤色
主音声 + 副音声：オレンジ色

こんなときは

外部サブウーファーを使用する

本機はサブウーファーを内蔵していますが、市販のサブウーファーを使用することもできます。「その他の接続について」（☞ P. 5）を参照し、アンプ内蔵のサブウーファーを接続してください。

1 **本機の電源をスタンバイにする。**

2 **本体 VOLUME －キーと本体⏻キーを両方押してから、⏻キーを先に離し、次に VOLUME －キーを離す。**

内蔵サブウーファーと外部サブウーファーが切り替わると同時に本機がオンになります。
下図のように SURROUND インジケーターが点灯するので、正しく設定が切り替わっているかご確認ください。（☞ P. 11）

	内蔵サブウーファー	外部サブウーファー
SURROUND インジケーターの状態（電源をオンにした直後 2 秒間の表示）	SURROUND ■ 緑色	SURROUND □ 消灯

- 初期設定は内蔵サブウーファーでの再生です。
- 再度本機の電源をスタンバイ→オンにすることにより、現状の設定を確認することができます。

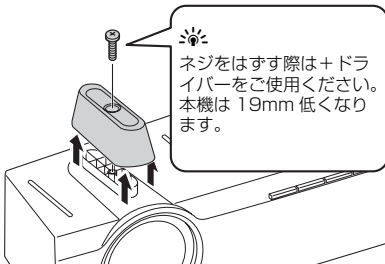
ご注意

内蔵サブウーファーと外部サブウーファーは同時に使用できません。

テレビリモコンが効きにくい（テレビの前に本体を設置したとき）

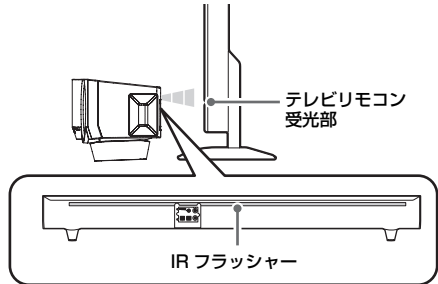
テレビの前に本体を置いたとき、本体がテレビのリモコン受光部を隠してしまい、テレビリモコンでの操作が効かないことがあります。そのときは、まず以下の二つの方法でテレビリモコンが効くようになるかを試してください。

① **本体の位置を前後左右に動かす**

② **脚部をはずして本機の高さを低くする**

ご注意

ネジをはずしたあとは、脚部とネジは大切に保管してください。

テレビリモコン中継機能を使用する

これらの方法で解決しない場合、本体前面で受信したテレビリモコン信号を本体背面の IR フラッシャーからテレビに中継する機能（テレビリモコン中継機能）を以下の手順で利用することができます。

1 **本機の電源をスタンバイにする。**

2 **本体 VOLUME ＋キーと本体⏻キーを両方押してから、⏻キーを先に離し、次に VOLUME ＋キーを離す。**

テレビリモコン中継機能のオン / オフが切り替わると同時に本機がオンになります。
下図のように CLEAR VOICE インジケーターが点灯するので、正しく設定が切り替わっているかご確認ください。（☞ P. 11）

	機能オン	機能オフ
CLEAR VOICE インジケーターの状態（電源をオンにした直後 2 秒間の表示）	CLEAR VOICE □ 消灯	CLEAR VOICE ■ 緑色

- 初期設定はオフです。
- 再度本機の電源をスタンバイ→オンにすることにより、現状の設定を確認することができます。

ご注意

- テレビリモコン中継機能を使用してもテレビリモコンが効かない場合は、再度本体を前後左右に動かしてください。
- 本機の電源がスタンバイのときでもテレビリモコン中継機能は有効です。

テレビリモコンで本機を操作する（リモコン学習機能）

テレビリモコンの操作を本機に学習させて、テレビリモコン一つで操作することができます (リモコン学習機能)。テレビのリモコンで操作できる機能は以下の３つです。

- **音量ダウン**
- **音量アップ**
- **電源のオン / スタンバイ**

この機能に対応しないテレビリモコンがある場合は、本機付属のリモコンをご使用ください。

1 **テレビと本機の電源をスタンバイにする。**

2 **本体 INPUT キーと本体⏻キーを両方押してから、⏻キーを先に離し、次に INPUT キーを離す。**

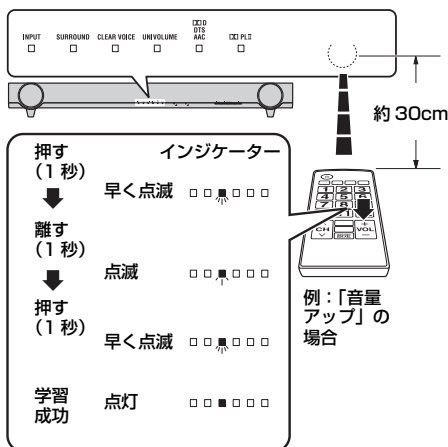
本機がリモコン学習設定モードになる。

INPUT
赤色に点滅

3 **学習させる機能に応じて本体の以下のキーを押す。**

学習させる機能	本体のキー	緑色に点滅するインジケーター
「音量ダウン」	VOLUME −	□■□□□□
「音量アップ」	VOLUME+	□□■□□□
「電源オン / スタンバイ切り替え」	⏻	□□□■□□

4 **緑色に点滅するインジケーターが点灯に変わるまで、本体リモコン受光部に向けてテレビリモコンのボタンを 2 回または 3 回押す。**

例：「音量アップ」の場合

学習に失敗したとき
UNIVOLUME、CLEAR VOICE、SURROUND が同時に点滅し、約 3 秒後に消灯します。

5 **手順3、4を繰り返して3つすべての機能を学習させる。**

6 **本体⏻キーを 3 秒間押し続けて、リモコン学習モードを終了する。**

インジケーターがすべて緑色に点灯したら、⏻キーから手を放してください。本機はスタンバイになります。

ご注意

- 本機がリモコン学習設定モードのときに、本機を何も操作しない状態が 5 分以上続いた場合、自動的に電源がスタンバイになります。
- 学習に失敗する場合は、テレビの電源を切った状態で、再度お試しください。テレビ画面の光がリモコン学習に影響することがあります。

学習したテレビリモコンの機能をすべて消去する

1 **本機の電源をスタンバイにする。**

2 **本体INPUTキーと本体⏻キーを両方押してから、⏻キーを先に離し、次に INPUT キーを離す。**

DD
DTS
AAC
赤色に点滅

3 **本体 INPUT キーを 3 秒以上押し続ける。**

4 **DD DTS AAC インジケーターが点滅したら本体 INPUT キーを離す。**

リモコン学習を終了する場合、また、続けて別のテレビリモコンの機能を学習させる場合でも、本体⏻キーを 3 秒間押し続けてリモコン学習モードを終了してください。

本機を初期設定に戻す

本機の操作ができなくなったときなどに、本機の設定を全て初期化して工場出荷時の状態に戻すことで問題が解決する場合があります。

1 **本機の電源をスタンバイにする。**

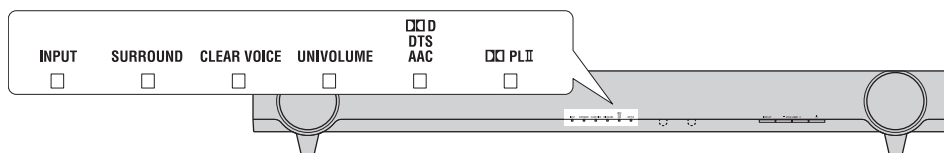
2 **本体⏻キーを 3 秒以上押す。**

全インジケーターが緑色に点滅します。

INPUT　SURROUND　CLEAR VOICE　UNIVOLUME　DD DTS AAC　DD PLⅡ

3 **本体⏻キーを離す。**

本機の動作表示（インジケーター）

INPUT　SURROUND　CLEAR VOICE　UNIVOLUME　DD D DTS AAC　DD PLⅡ

上図 6 つのインジケーターを左から順番に並べ、各々の点灯色を下記のように定めます。
▦：緑色に点灯　■：赤色に点灯　▒：オレンジ色に点灯　□：消灯　回：緑色に点滅　▣：赤色に点滅

起動直後の表示

本機の状態によって起動直後のインジケーターが以下のように表示されます。

サブウーファーの再生 (☞ P. 9)	テレビリモコン中継機能 (☞ P. 9)	インジケーター
内蔵サブウーファー	オフ	▦▦▦▦▦▦
外部サブウーファー	オフ	▦□▦▦▦▦
内蔵サブウーファー	オン	▦▦□▦▦▦
外部サブウーファー	オン	▦□□▦▦▦

設定モード時の表示

設定モードになったときのインジケーター表示は以下のようになります。

設定モード	インジケーター
リップシンク調整モード（☞ P. 8）	回□□□□□*
テレビリモコン学習モード（☞ P. 10）	▣□□□□□*

* 学習済みの機能がある場合は、対応するインジケーターが点灯します。

通常時の表示

INPUT	SURROUND	CLEAR VOICE	UNIVOLUME	DD D DTS AAC	DD PL II
▦:TV 入力	▦：サラウンド再生	▦：クリアボイスをオン	▦：ユニボリュームをオン	▦：Dolby Digital	▦：2ch ステレオ信号入力で、サラウンド再生のとき
■:BD/DVD 入力	□：ステレオ再生	□：クリアボイスをオフ	□：ユニボリュームをオフ	□：PCM	□： • ステレオ再生のとき • サラウンド信号入力でサラウンド再生のとき
▒:STB 入力				■：DTS Digital Surround	
□：スタンバイ	回/回/回：ミュート時			▒：MPEG2/AAC	

困ったときは

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は下記の点をご確認ください。
対処しても正常に動作しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にあるご相談センターにお問い合わせください。
まず以下の点を確認してください。

1 本機、テレビ、再生機器（BD レコーダーなど）の電源ケーブルのプラグがコンセントにしっかりと接続されている。
2 本機、テレビ、再生機器（BD レコーダーなど）の電源が入っている。
3 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

症状	原因	対策	参照ページ
電源が突然切れてしまう。	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードを コンセントにしっかりと差し込んでください。	4
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）によりフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜いてください。約 30 秒後にもう一度差し込み、電源を入れてください。	—
	本機を何も操作しない状態が 12 時間以上続いた場合、自動的に電源がスタンバイになります。		—
スピーカーから音声が出ない。	スピーカーの音量が小さい。	スピーカーの音量を調節してください。	7
	消音されている。	リモコンの消音キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	7
	再生したい入力が正しく選ばれていない。	再生したい入力を正しく選んでください。	7
サラウンド感が得られない。	ステレオで再生している。	サラウンドキーを押して、音響効果をかけて再生してください。	7
低音が出ない / 外部サブウーファーから音が出ない。	サブウーファーの音量が小さい。	サブウーファーの音量を調節してください。	7
	内蔵 / 外部サブウーファーの選択が反対になっている。	使用する内蔵 / 外部サブウーファーを正しく選択してください。	9
	再生しているソースにサブウーファーチャンネルの信号 や低音信号が含まれていない。		—
	（外部サブウーファーに設定しているとき）本機とサブウーファーを接続するケーブルがはずれている。	本機と外部サブウーファーをサブウーファー用ピンケーブルで接続してください。	5
勝手に音量が下がっていた。	突然大音量が出力されるのを防止するため、次回電源オン / スタンバイや入力の切り替え時にある一定の音量に抑えられます。	元の音量に戻してください。	7
本機が正常に動作しない。	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	電源をスタンバイにし、コンセントから電源プラグを抜いてください。約 30 秒後にもう一度差し込み、電源を入れてください。	—
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている。	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。	—
リモコンで操作できない。	リモコンの操作範囲外で操作している。	リモコンの操作範囲について詳しくは「本機リモコンの操作範囲」をご覧ください。	6
	受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池を交換してください。	6
本機の音量と同時にテレビの音量も大きくなってしまう。	学習済のテレビリモコンからの信号をテレビ本体で受光している。	再度、テレビの音量を最小にしてください。また、テレビに内蔵スピーカーの音声出力設定がある場合は OFF にしてください。	—
		本機リモコンを使って音量を調節してください。	7

症状	原因	対策	参照ページ
音量やサブウーファー音量、リップシンクの調整が変化しない。	調整値が最大値または最小値に達している。		7、8
テレビリモコンを本機に学習させることができない。	本機の受光部に日光や照明が当たっている。	本機の角度を変えてください。	—
	テレビ画面の光がリモコン信号を妨害している。	テレビのコンセントを抜いてから再度本機に学習させてください。	—
	テレビリモコンの乾電池が消耗している。	乾電池を交換してください。	—
	学習させる際にボタンを押す長さが短い。	学習させるテレビリモコンのボタンを、1 秒間押す→ 1 秒間離す→ 1 秒間押す、の順に押してください。	10
	非対応のリモコンを本機に学習させている。	付属のリモコンで本機を操作してください。	10
	テレビリモコンを適切な位置で操作していない。	本機から 30cm 程離し、本機のリモコン受光部に向けてテレビリモコンを操作してください。	10
	リモコン学習設定モードになっていない。	INPUT インジケーターが赤色に点滅しているのを確認してから操作してください。	10
本機にテレビリモコンの電源キーを学習させた場合に、本機とテレビの電源が逆になってしまう。（例：テレビがオンになるのに、本機はスタンバイになる）	元々電源の状態が逆になっている。	テレビ本体の電源キーと本機の電源キーを押して両方オンにしたあと、テレビリモコンの電源キーを押してテレビと本機をスタンバイにしてください。	10
テレビリモコン中継機能を使用してもテレビのリモコンが機能しない。	本機とテレビが遠すぎる、または近すぎる。	本体の IR フラッシャーとテレビの受光部の位置を調整し、もう一度試してください。	9
		本機脚部をはずしたり付けたりしてもう一度試してください。	9
	本機とテレビのあいだに障害物がある。	本機とテレビの間の物を取り除いてください。	—
	テレビリモコン中継機能がオンになっていない。	本機を再び起動しなおしてインジケーターの点灯状態を確認してください。	9
	テレビリモコン中継機能に非対応のリモコンを使用している。	本機の脚部をはずすなど、本機がテレビリモコン受光部を隠さないように設置してください。	9
3D メガネが機能しない。	本機がテレビの 3D メガネ用発信部を隠している。	テレビの取扱説明書を参照して 3D メガネ用発信部を確認し、受発信部が隠れない位置に本機を移動してください。	—
テレビ画面がゆがむ。	ブラウン管テレビに本機を近づけすぎている。	本機をテレビから離してください。	—

以下の症状が出た場合は、ヤマハ修理ご相談センターへお問合せください。

症状	原因	対策	参照ページ
電源が突然切れ、INPUT インジケーターが点滅している。	保護回路が作動した。		—

主な仕様

アンプ部

- 定格出力
  - フロント L/R(1kHz、1% THD、6Ω)....24W+24W
  - サブウーファー (100Hz、1% THD、3Ω) 48W
- 実用最大出力
  - フロント L/R(1kHz、10% THD、6Ω) ....30W+30W
  - サブウーファー (100Hz、10% THD、3Ω)......60W

スピーカー部

- スピーカー形式
  - フロント L/R .... 密閉 / 非防磁型
  - サブウーファー ....バスレフ / 非防磁型
- ユニット
  - フルレンジ .... 6.5cm コーン× 2
  - サブウーファー................................. 7.5cm コーン× 2
- インピーダンス
  - フロント L/R...6Ω
  - サブウーファー..3Ω
- 再生周波数帯域（－ 10dB、ステレオモード）
  - フロント L/R.....................................150Hz ～ 20kHz
  - サブウーファー....................................50Hz ～ 150Hz

入力端子

- 光デジタル .... 2 個（TV、BD/DVD）
- 同軸デジタル .... 1 個（STB）

出力端子

- サブウーファー出力...1 個
- サブウーファーシステムコントロール.........................1 個

総合

- 電源電圧.. AC100V、50/60Hz
- 消費電力..22W
- 待機消費電力..0.5W 以下
- 寸法（幅×高さ×奥行き）
  - 脚部含む ....890 × 107 × 120.5mm
- 質量..4.2kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機はヤマハ独自のバーチャルサラウンド技術「AIR SURROUND XTREME」を搭載しております。定位感に優れた高品位な 7.1ch サラウンド再生を本体 1 台のみで実現します。

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。Dolby、ドルビー、PRO LOGIC およびダブル D 記号 DD は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

DTS および DTS Digital Surround はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

「ユニボリューム」「UniVolume」は、ヤマハ株式会社の商標です。

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10:00～18:00　土曜日 10:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 9:00～18:00　土曜日 9:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

九州、沖縄、中国、四国、近畿、東海、北陸地域にお住まいのお客様
(06) 6465-0367

修理品お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

北海道　〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011) 512-6109

首都圏　〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

名古屋　〒454-0832 名古屋市中川区清船町4丁目1-11
ピアノ運送(株)名古屋営業所1F
FAX (052) 363-5903

大阪　〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX (06) 6465-0374

九州　〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092) 472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間
製品に添付されている保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1